湖月抄

一之末

內閣文庫

幻 細 巻名なり号之 ほうの大空をとうふまがうて是をのごう
てくうなるのの系しらなよ。まがうてとい血 幻術をとをいふなり。
変化〳〵虚空よ花をあ〳〵〳〵〳〵みどりをとをいふて 是桜 此奇
八源氏君房乃宮をしぶをこて。の玄宗皇帝の後ふく道
士幻術をとりらく楊貴妃の魂魄をもとめまをとひてこと。
めくるく。幻ハ説文相詐惑也。増韻妖術也。即今呑刀吐火植瓜
種木之術皆是をく 細 源五十二巻の正月ちう十二月すぐを
ふ重くよちをとり。巻上をちれどきん日〳〵用くよしこえま
なきをあ〳〵つせて。そぐ海ふあるりめく 血日巻 花色よ巻
八源の四十八の年生也。作〳〵〳〵〳〵巻よ此作〳〵

去の去を 細 可よちの
去し拙〳〵〳〵〳〵
まれた我で山汐の
ふあり作去を絵を
もは思のあ〳〵〳〵
ど〳〵〳〵ちとりさ
ぼうを去ひて去の
ふるべし又巻上ハ去
ふ〳〵せ絵ふよ源の心
に生ちふ〳〵〳〵
〳〵ハ也ひの 細 法華
ふも女ぐこみぐ絵
まれ〳〵あり鏡きこの
さ四をふよつ〳〵〳〵
〳〵ちとけ〳〵ちこて
おの源のの〳〵し生ふ〳〵で巻
と四〳〵〳〵ひとまて
〳〵ぐやぐこ 細 去を考ふ
よ絵ひてこちり血熱傷絵
よ花をるふよ去めぬり
ふし作去をぬ〳〵花を
絵一巻上のこれをひまる
をとふよこふ〳〵のこ〳〳
ま〳〳〳〳て 細 源をなこ〳〳

春のひりとこあふよつけこと。いぐ〳〳られ
まぐひこちうよのこれこちひこりいる
しこのあ〳〵〳〵まちぐ〳〳ちあ〳〵ぬよ。と
巻五ちふ 血年始ちて〳〳まれと対面ちこ
ど例のやうよんぐ〳〳ちりのひちられ
ひく〳〳こすのこちよのこおつ〳〳ま。と。 細 貴ちう
のこちこりこるこぐ〳〳つちりけふ
こ〳〳〳〳対面こ絵ちんとて。ぬこ〳〳こ
〳〳〳〳ふ 法
とが富い花りてこちやをんりのふ
ふ去のこちふ〳〳ちんこ虫ぐこ。ち洞ぐ〳〳のひて
巻 者をこ〳〳〳〳てこちちひこ〳〳こ〳〳〳〳

世のなかのことはのうらうら
ろろんじ

治世よい　細　長うくみと保
こ身を持んとそひも人
めをづくりて打ぬるる
うしく仰ぶうえん
とい雪よ〻もうう世の
中れうけうるわうさぬり
山のネをよりれるゆさ
やけるおもしうぎの影〻脇
夫ゆけまい〻ろを　伝　央補
仰ぶけの後長く央ぶけ
し央ろうの世ろうさう
後のゆくうう〻節変
補るぶしうて番ゆるゆ
こうく

るるぶし　いつぶ〻ろもつりよげう雪れ
といの後　保のく　盃　さ三〻ゆうまゆのうよこ
ろうすうのれうこのうびしこもふ
うくうれし
保
くうさ世まい雪治うんとそひつこひの
うよる後ぶ保ぶ〻ろ例のまぶ〻ろうつよは
れてうびけうてどるるひふぶづこう
央ゆうしあくれ央とけまつくて中細え
のんの中れのうてるぶ保ゆうんらくれ物後
ろう四　独ねつひうもさびしうつる
秋のうんゆ　遠世てうく後行てもこ
ぶべうろ世とどるるくもうづひ

世のうぶ〻　細　あうう
ぶうの四ひぶうれて紀
のうぶ〻えいつうぶまう
ん

きうれとうるぶ後後後　盃　うう後後後

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海の梅　細　武蔵国の海の梅

袖ふれやうらめしかるらんそのかをりの
ゆかしさ

うぐいすのなきかはすらんうらうらの
海の梅花　海の梅花の
ゆかしきかをりはいつくにか
うぐいすのなきかはすらんうらうらの
海の梅花

孟　あまのはしたてのうらうらの梅花
うぐいすのなきかはすらんうらうらの
海の梅花

わかんでそのひつぎうきせとまえそしさ
やり給ふ　ぞすれうこぐよ　柿　ものとうら海
のめいさのまつよつげくいえいてをさぐこ
海のの　細　いつこ　細　ささいの　海の　海の
とぞうぐいすなきかはすらんうらうらの
ものせしひろくくのはるひもらべ
そさいの　細　二条院うぐいすのこ　細　紫上の遠えとの梅
ちうえあうこさまてるといく　海　孟　梅の
てまうら海　孟　二月のこ　梅の
たのうらはるうらもそこしこもあ

海の梅花

袖ふれうらめしかるらんそのかをりの
ゆかしさ

うぐいすのなきかはすらんうらうらの
海の梅花

海の梅花

うぐいすのなきかはすらんうらうらの
海の梅花

うぐいすのなきかはすらんうらうらの
海の梅花

孟　あまのはしたてのうらうらの梅花
うぐいすのなきかはすらんうらうらの
海の梅花

つのはるこの梅
海の梅花

袖ふれうらめしかるらんそのかをりの
ゆかしさ

うぐいすのなきかはすらんうらうらの
海の梅花

[illegible]

細除服[illegible]

[illegible]

細平絹のうちと[illegible]

[illegible]

心喪の服は用[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるこゝろなる　曉　さり清　細　細殿さんと盃　女のこの後ゆもどりてと床のうし

まぐれうくをるひまてひとりうさよ思
うるれまるもいとうくやまうくあさ〳〵
つる女のけんぶざーみぶんとうれのうくく見れ
ーう恋ぶさうあのうれ乃々ぐへしてい
と面白くうれて主よはうつせしうし
人なてて花の名をさうくのそれさう
名を伝のけうくうみくこそうべりうれ
とのなてて六条院南の御くし紫上の御方ひ一方
ようしんの日へのやまぶきこそ世
ぞうようさうるどいとそさりを
名花あやうん花やうよみざそし
さうさいいと面白さりのようんあうる

侍　人なき　細　宮と者
と者のこゝろ白花うん
うん人の新そ白うき
若よ人まうし　細　女三宮の
御方ゆくの伝うくの名
へと和ひとあとうる
不源の身ようて主の
ようく　主なき若ようを
こうそうれそけうて
うく　細　和ひとうう
侍　主なき若ようを
三宮の里下なくされも
和ひとあーとうをを
うけとうーやうう
うう活うう
そのうれさうでも
細　見ようつけても見あ
うをあうく一ウ主
そのようぶふと思ひ
うのうーうう
和泉式部ひとでそうの
うくうひ出くうう主の
主きこもぐうとうるん
とあう

うへうん分きうきとうれぶまてづね
ううと白ひうるうて主よ行れうの
絶れうくよ若みて主りうよぶりうく
主なううとうそれぶくくうと主
ううくよつけてうそのくうれうくうく
ありうん人うとううよぶふ和うてて
うくうくうけうううーぶどうう
やうくうの主の後上のやうるうの方
のれありうう風といでうのようとぞやうし
とれぶーう出うよはぶけうのれううの
くううくうくーぶうくくーあうへれやうー
ううぶ風りてうーうの紫ふうとりひで
けうれうまよれいのうぞのりうさは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紅のうすもえぎ　細撫子色の服着のうへ紅のうすもえ　黄紅のうすもえ
黄丹色の服着の　蘇芳色の服着の
黄丹色の服着の　中将の表袴
くるとうすもえ　若紅服
とぐ一碁のうすもえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伝 涙を輪俱悲旦吟黄壌誰知我白頭独念君唯将老年涙一灑故人文 未天元少 未集序

細 わとこの事弘仁師山をこゆるとふ歌

伝 弘法をうたふ 伝十王経文 死天山門集 鬼神をそ

世をうらむ 孟浩人の夕 仁師ゆく忘るゝ別を

る事をふまりてい

る親をうらむ

細 うきを清先そ

めてし師 ものゝ事弁の

といふ死人の名れ種出

るゝ代々もをやこ持

ゝ

伝 光仁天皇

宝亀五年 始之 見官東

事類 佛名経記 並札一切

十方三世諸佛三塗苦患国

豊民安

伝 錫杖 経曰錫杖亦名智

杖 彰 聖智也 伝 佛名

表 初日後夜 導師着

札盤唱佛名畢 錫杖又

外三夜 錫杖後 施人食

取内侍出 綿被 導師

外 僧等

移 未なゝさ 細 佛名の導師

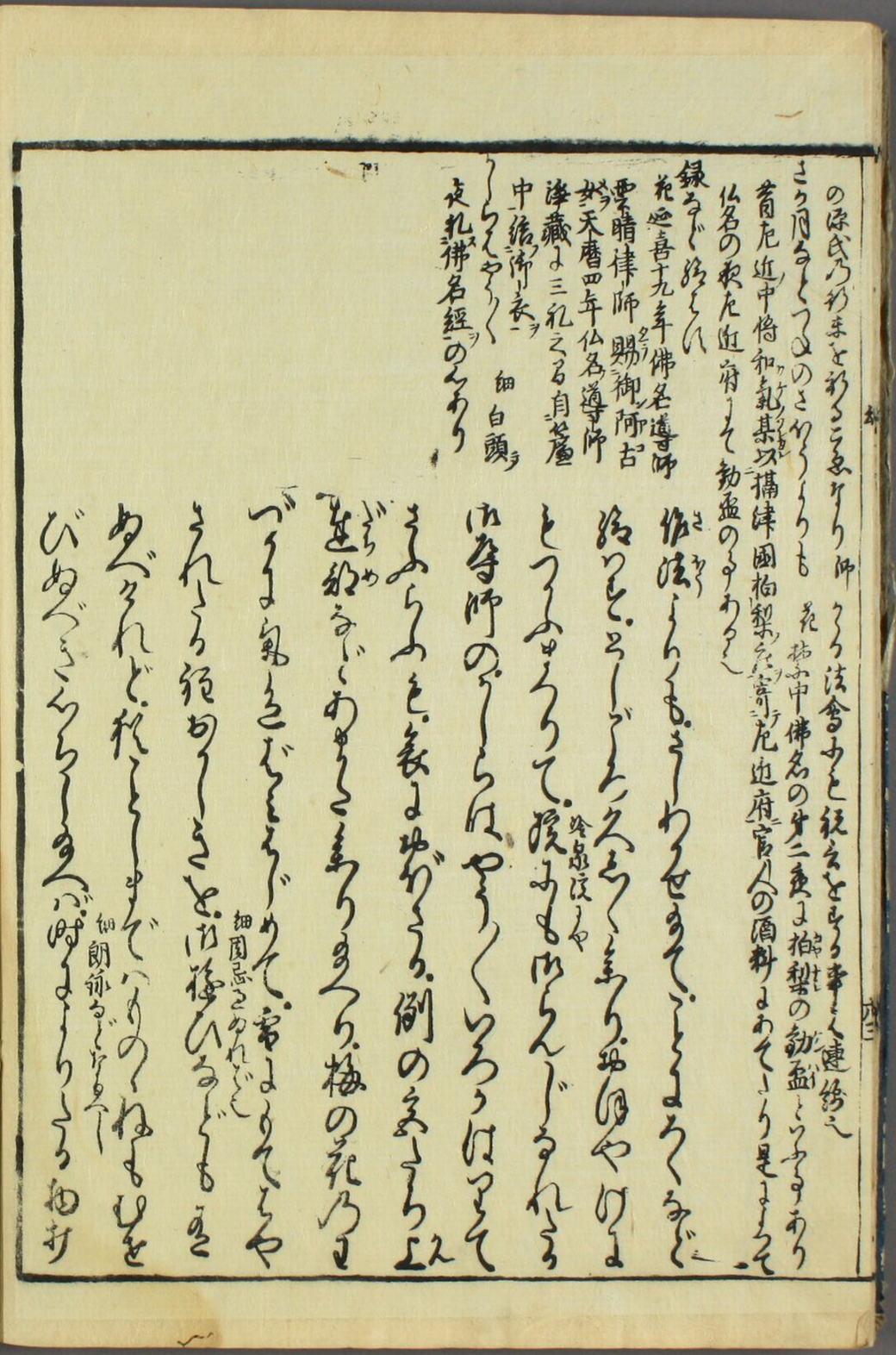
細 光仁 天宝 孟十二月

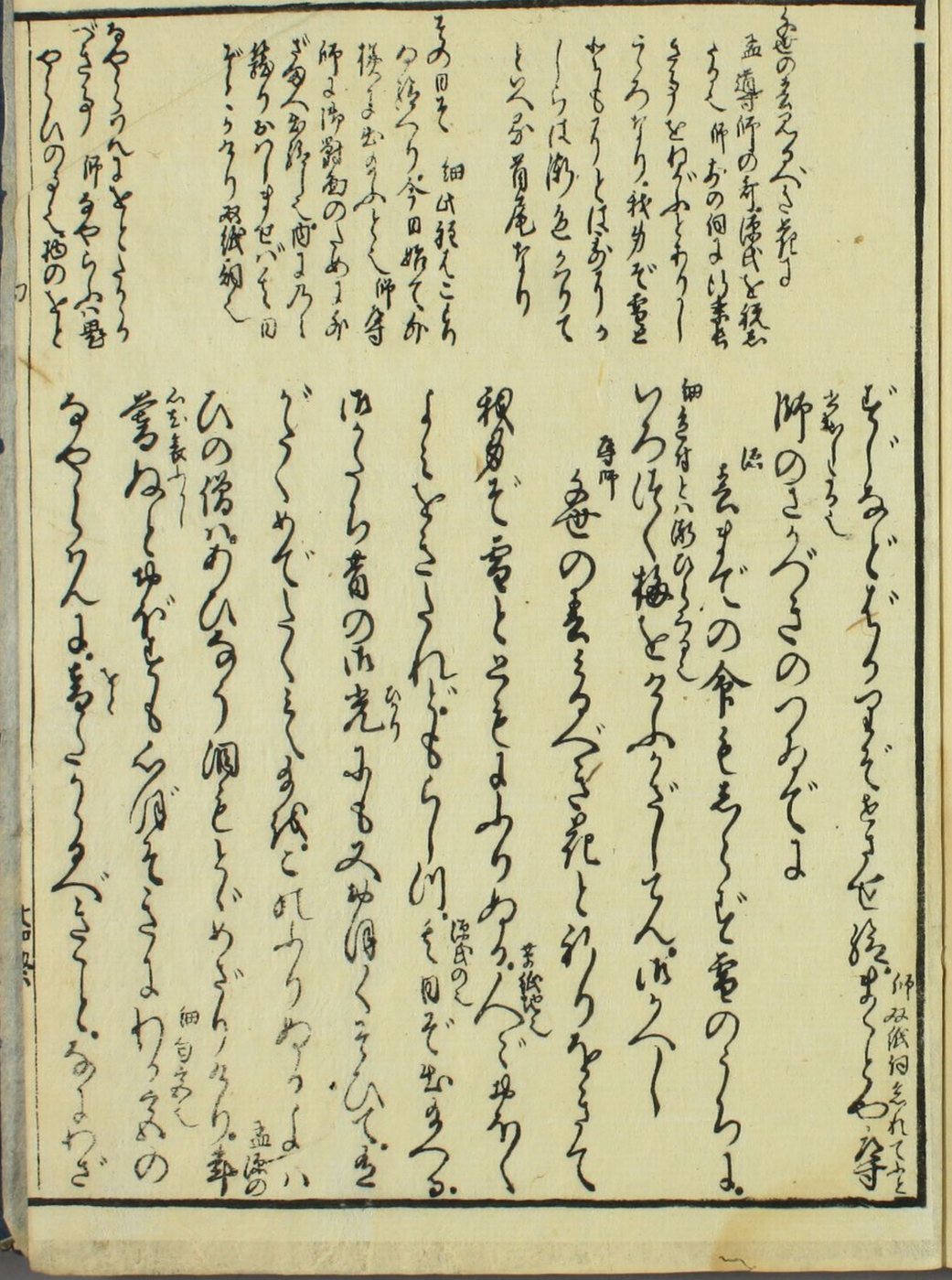
伝 孟十二月

伝 尼

導師

の源氏乃物まを物ること忘けり師　くろ法師みと紙を引き寄せ連絡へ
さう用をしつゝのさかりくらも　花　拍子中佛名の半二表よ拍子の勧盃　とうすあり
首尾近中倚和氣基以構律國柏梨　花　寄テ尾近府官人の酒料よあそこり是よりて
仏名の歌尾近府　勧盃のゆわりく
録をぐ給ふ
花　延喜十九年佛名導師
雲晴律師　賜御師古
女天暦四年仏名導師
法藏よ三礼之る自蓋
中結御師表　細白頭
くらうくやく
皮礼佛名經のくわり





[illegible]

[illegible]

[illegible]